

[MYJCページに戻る](#)

サンスポ千葉は募集中 ゴール後に新年会

I. 皇居ラン・ウォークは10月5日(土)……詳しくは先月号をご覧ください

下記の方々から申し込みいただいております。

会 員：入江正子、江口精五郎、奥秋良重、神谷博行、日下克也、東山道之、古田早百合、森本義喜

非会員：入江秀則(明治安田システムテクノロジー)、瀬戸口徹(コンプライアンス統括部)、前田欣弥(明治安田ビルメンテナンス)

サラ文：太田宏、加藤三郎、金子勝子、野崎肇、府川謙吾

II. サンスポ千葉：1月19日(日)は募集中……例年ゴール後に海浜幕張駅の近くで新年会です

人気大会(ハーフ、10km)ですので、早期のエントリーをお勧めします

III. 東京マラソンの抽選結果……下記の方々から連絡がありました

当選：永吉昭子、松本真砂美

落選：秩父秀隆、永吉芳典、東山道之、福田幸一、松本寿吉郎

IV. 会員名簿を訂正ください……51人になりました

岩間敦子 (遅れ入金) 〒025-0084 花巻市桜町2-19-1

神谷博行 (電話) 03-3825-5773

日下克也 (住所) 〒177-0031 練馬区三原台1-33-13

九川孝司 (10月1日異動) ⇒ 出向(安田学園教育会)

淵井謙介 (10月1日異動) ⇒ 総務部

V. 簡単なお知らせ

①とびら10月Autumnの11ページに、三沢信司総務部長が登場しています

②松本寿吉郎さんが東京新聞に登場しました

先月号で紹介した本を出版したことで、9月17日の東京新聞夕刊に紹介されました。 ⇒ 2ページ

他に、「社会教育」9月号でも、紹介されました。

VI. 会員からのお便り

入江正子 近況報告

皇居大会の当日は、歌の練習にあたらなないので、参加できます！！夫婦で参加させていただく予定です！！その後の懇親会にも、二人で参加予定です。

7月7日に、闘病していた父が82歳で逝きました。最後の1週間は、全身、管につながれた状態で、会話もほとんどできませんでした。50代から、大病をしては復活していた、昭和ヒトケタ生まれの強い人でしたので、今回も、かすかな期待はしていたのですが…。寿命といえば、そうだったのかも…です。

父が最後の病院での闘病生活をしている頃、私も体調を崩しましたが、最近、やっと、薬を飲まなくても、ご飯を食べられるようになってきました！当日も、お酒を飲めるかどうかはわかりませんが、外食は普通に摂れるようになりましたので、久しぶりに、コミュニケーションの輪に加わらせていただけたら、と思います。

走りはじめて30年目、最近は腰・膝が痛いと言も少なく歩きが中心。

69歳で四国88ヶ寺ひとり歩き遍路50日間1200キロ完歩。70歳で6時間52分、爽やかホノルルマラソン完走。71歳の今年、仲間11名（男6名、女5名、平均69歳、女房は当然行きません）で、アレキサンダー・マルコポーロが辿った過酷な「シルクロード」走破を決めました。

9月22日から、三蔵法師と孫悟空でお馴染み火焰山の中国ウルムチ・トルファンをスタートし、ユーラシア大陸6ヶ国横断8000キロに挑戦。砂漠・山脈、カスピ海・黒海沿いをトルコ・イスタンブールまで、33日間バスと四輪駆動で走破。「ホテル・食事は期待しないで、青空トイレも覚悟」と云われ、ニュースが届く頃は、中国天山山脈を経てカザフスタンのタシケントを過ぎ、ウズベキスタン、サマルカントあたりをウロウロしてます。政情不安が心配ですが、体調調整10月24日帰国できるよう頑張ります。

松本寿吉郎 東京新聞9月17日夕刊に載りました

大企業に負けない戦略

中小企業診断士を主な会員とする「ニュービジネス研究会」は、中小企業診断士協会認定の研究會として、一九八〇年から旬の企業の代表をゲストスピーカーとする月一回の勉強会を休まず三十三年間にわたって続けてきました。

自著を語る

「登場いただいた代表は約四百社。その中から代表の「ピト」に注目して十人に絞り、あらためてその経営哲学や事業戦略、後継者育成、失敗談、若い人へのアドバイスなど追加取材、まとめたのが本書です。

ここで特に印象に残ったことを、二つご紹介いたします。ひとつは、競合他社を蹴落とすべきライバルではなく、共に切磋琢磨

『こんな会社で働きたい！』

小さなガリバー 輝く10社

松本 寿吉郎さん (ニュービジネス研究会代表)

磨する仲間として捉えて彼らが起業できたのはな
いること。そしてもうひせ？ 時代の変化を乗り
とつ、今回「登場いただいた越えられたのはなぜ？
いた十人に共通するの 不遇の時代を耐えられた
は、お人柄の素晴らしさの はなぜ？ 社員を大事
に加えて、幼少、学生の にするのはなぜ？ 地元
ころに獲得した価値観 の人々や消費者から愛さ
が、その後の事業にも色 れているのはなぜ？ そ
濃く反映していること して、私たちがなぜ彼ら
す。



読んでいただければ、

な会社で働きたい！とは、キラキラと輝く、小

思っに到った理由 さなガリバーの発展と
がおわかりいただ 若く有望な皆様を応援し
けるはずですよ。 続けたかと思っていま

最近、中小企 業経営者の高齢化

が進み事業継承の 趣味のマラソンと同じ
困難を廃業理由に て後押ししてくれまし



2012年10月、鳥田大井川マラソンで

た。手島伸夫
サプライダー
との二十五年
に及ぶ連携の
賜物と感謝し
ています。
(東峰書房・
一三六〇円)

まつもと・じゅきちろう 1934
年、大阪・天満生まれ。横浜在住。大
手生命保険会社を定年退職後、中小企

業診断士。現職のほかに興業種交流
「アサシテ会」会長。マラソンキャリ
ア40年、世界各地の大会に25回参加。

挙げる企業は年間七万社
余りに達しています。こ
のような危機的状況の中
で、写真館から陶器製造
販売、アロマセラピーへ

東山道之 紀伊の「国」盗りハーフを完走

マラソンランナーが楽しむための工夫の一例に、「国盗り」と称するものがある。都道府県の市民レースを完走すると「県を盗った」として、生涯に全都道府県を「盗ろう」とするものである。私は古文書を学んでいるので、「県盗り」ではなく「国盗り」にしている。

まず「国」であるが、はっきりしているのは、大宝元年（701年）の大宝律令で全国に58の国（壱岐と対馬は国でなく島）を定め国司（壱岐と対馬は島司）を配備した。その後、養老律令その他の機会に新設や統合で国の数が増減し、壱岐と対馬も国になり、弘仁15年（824年）に68か国になって明治まで増減が無かった。もっとも、「国境」の変更はあった。例えば、武蔵と下総の「国境」は、当初は荒川（今の隅田川）であったが、貞享3年（1686年）に今の江戸川に変更になった。68か国に北海道と沖縄は含まれていない。

私は8月末までに市民レースを319回完走していた。フルマラソンが125回、ハーフマラソン75回、10キロ44回、5キロ29回、その他の距離46回である。これらを国別にすると、フルで盗った国は27、ハーフで盗った国は20、その他の距離で盗った国は12。ハーフやその他の距離（特に短い距離）で盗った国が少ないのは、短い距離を走るために遠征するのは特別な理由がある時に限られるからである。距離に関係なく、とにかく市民レースを1回でも完走することによって盗った国は、まだ36か国に過ぎない。他にマラソンで「盗った」国に、蝦夷、琉球、アメリカ、カナダがある。完走回数が多い国は、表の通りである。出張や旅行で行っても盗ったことにすると、52か国になる。すなわち、「まだふみもみず」の国が16もあった。列車やバスで通過したり、駅で乗換えたり、飛行機で上空を飛んだりしただけのものは「盗った」ことにはしない。

完走回数ベスト5(8月末) 5か国+蝦夷で242回になる

国	合計	フル	30 ^キ	ハーフ	10 ^キ	5 ^キ	他距離
武蔵	109	22	12	14	30	27	4
甲斐	40	13		25			2
下総	36	5		16	13		2
陸奥	16	9		3			4
安房	14	14					
(蝦夷)	27	16		1			10

「まだふみもみず」の16か国(同)

今の中部地方
若狭、飛騨、三河
今の近畿地方
和泉、丹後、但馬、紀伊
今の中国地方
因幡、伯耆、石見、美作、備後
今の九州地方
豊後、筑後、壱岐、対馬

蝦夷の他距離は、100^キ3回、55^キ3回、50^キ2回、その他2回

秋の大会出場計画を立てる時、①まだ行ったことがない国、②制限3時間のハーフを探したら、9月22日の「平成の熊野古道マラソン」が見つかった。国道42号と並行して自動車専用国道が開通するので、1週間前にマラソン大会を開催するもの。自動車専用国道は、国道だから無料であるが、信号や交差点は無く、幹線道路との交差はICとして高速IC並みになっている。会場の熊野市は、三重県であるが、昔は紀伊の「国」に属していた。

紀伊の国の語源には、木が多いから「木の国」と言う説と、古代の有力豪族紀氏の支配地だったから「紀の国」と言う説がある。今の和歌山県だけでなく、今の三重県南部の熊野市、尾鷲市、紀北町も紀伊の国であった。明治5年（1872年）に熊野川を和歌山県と度会県の境とし、明治9年（1876年）に度会県は三重県に併合された。熊野市やその北の新鹿（あたしか）までの鉄道は、和歌山側から延びてきた。尾鷲市やその南の九鬼までは、名古屋側から延びてきて、昭和34年（1959年）に両者が繋がった。熊野市は紀伊（和歌山）との結びつきが強かったと思われる。

交通が不便なところである。鉄道は1時間に1本よりもっと少ない。熊野三山（本宮・速玉・那智大社）は熊野詣として平安の昔から信仰の対象であり、今も熊野古道を歩く人は多い。歴史の町でもあるので、大会後は探訪しようと計画したが、3連休とあって宿が取れなかった。レース前日の宿も熊野では取れそうもなかった

安い割に非常に広い部屋だった



2本の巨大な楠

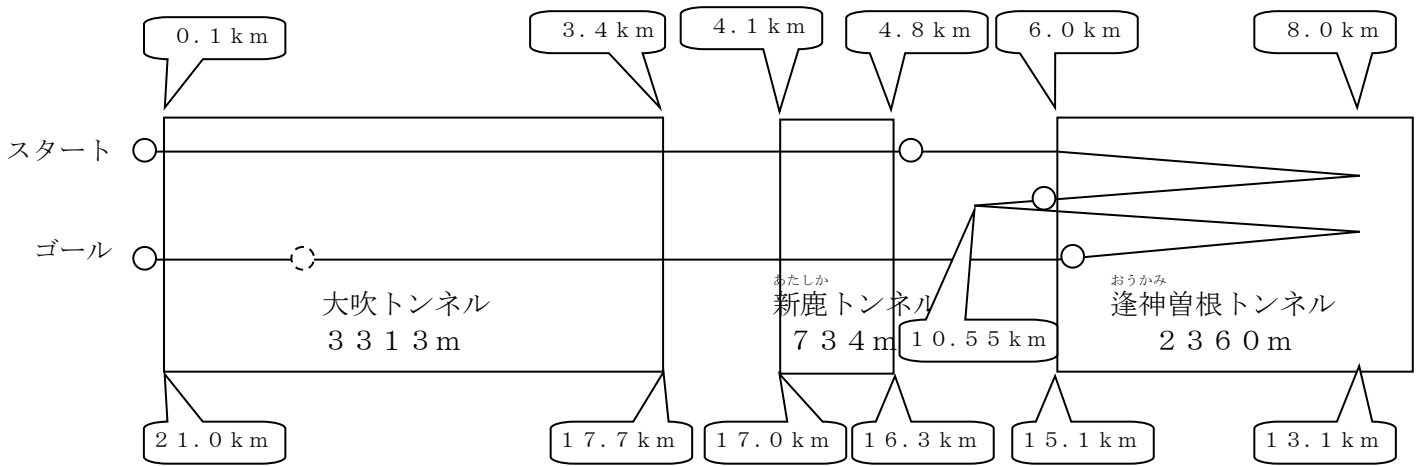
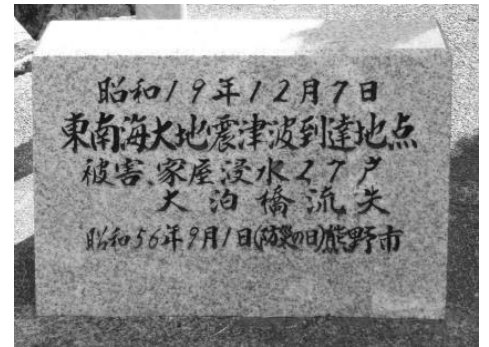


なかったので、名古屋寄りの尾鷲市に泊まった。駅から3分で、食事ナシだが5000円、部屋はやけに広かった(写

真)。尾鷲神社には2本の巨大な楠(写真)があった。片方の幹回りは10m、寛永13年(1636年)に紀州藩が調査した時、既に6mあった。樹齢は1000年以上推定されている。隣の護国山金剛寺は紀州藩の信仰厚く、瓦には三つ葉葵があった。山門に犬飼毅の「護国山」の揮毫があった。

スタート・ゴールは、熊野市駅の1つ名古屋寄りの大泊駅から徒歩5分。ハーフのスタートは10時30分、受付は9時30分まで。尾鷲駅発の電車は7時37分発(大泊着8時16分)の次が9時03分発(大泊着9時46分)。ハーフのエントリーは1000人、田舎の大会だから遅刻しても受け付けてもらえるだろうとは思ったが、7時37分発で行った。会場は道路下の単なる空地、晴れていたから良かったが、雨だったら大変だったと思う。スタートまで2時間もある。徒歩数分のところに小さなお寺と神社があったので行ってみた。取り立てて言うほどのものは何もなかったが、途中で昭和19年の南海地震の際に津波がここまで来たとの碑(写真)があった。なお、10時を過ぎても受付ていた。

津波の記念碑



コースは直線に近く、真っ平らであった。片側1車線ながらかなり広い。山岳地帯とあってトンネルだらけ。スタートが大吹トンネルの目の前(写真)、3.3 kmを抜けて700メートル行くとまた新鹿(あたしか)トンネル。こちらは734mと短い、それを抜けて1.2 kmも行くと、また逢神曾根(あうかみそね)トンネル。2.36 kmだが、2 km行ったトンネルの中で折返す。途中で熊野市と尾鷲市の境界の表示があった。折返してトンネルを出て直ぐが10 km。さらに550 m進んだ所が中間点で2度目の折返し。再び逢神曾根トンネルに入り、先ほどと同じ所を折返してゴールに向かう。天候は快晴、最高気温が27.5度、計約16 kmがトンネル内であったが、トンネル内は少し涼しく、なぜか風も少しあった。道は一貫してほぼ100mの高さの所を通っている、トンネルの外は海が見えて見晴らしが良く、風も結構あった。給水所は3か所ながら、折返すので7回立ち寄れる。1回きりの大会だが、運営は良かった。

スタートライン前



8月22日に不整脈の心臓治療を受けたので、練習も9月12日に再開したばかり。無理はしないつもりだったが、スタート直後は不調ながら段々楽に走れるようになったので、楽に走っている間にペースは上がっていた。と言っても、300歩ラン+50歩ウォーク。18 kmからは200歩ランになった。それでも、2時間31分台は上出来だった。

5	38.11	38.11
10	35.51	1.14.02
15	35.24	1.49.26
20	35.03	2.24.29
goal	7.24	2.31.53

会場では地元産の青いミカンを配っていた。小さく、見るからに酸っぱいような感じだったが、食べてみたら甘くておいしかった。10個ぐらい追加にもらった。会場から熊野市駅に無料のバスが出ていた。時間があったので駅前で遅い昼食にし、青いミカンを箱で買って宅急便で送った。熊野市駅から特急で名古屋まで3時間20分、名古屋から「ひかり」(大人の休日倶楽部で3割引)で品川まで2時間、自宅までは6時間かかった。かくして紀伊の国を「盗った」。次のレースは10月27日名古屋でハーフである。マラソンでは、まだ尾張の「国」は盗っていない。